

感染症関連トピック検索例 : 溶連菌性咽頭炎

~ Keyword ~

Streptococcal pharyngitis, Antibiotics, Clinical prediction rules, Complications, Acute Rheumatic Fever, Acute Glomerulonephritis, Streptococcal Toxic Shock Syndrome

使用したデータベース : DynaMed 検索日 : 2013年7月2日

Case(感染症関連トピック)

5歳の男の子が起床時にのどの痛みを訴え、熱を測ると38.5°Cありました。咳は出ていないようです。診察室で頸部リンパ腺を触診すると、腫れと圧痛が確認出来ました。男の子は2日後に遠足を控えていて、両親からは休ませるべきか相談を受けました。症状から、溶連菌感染を疑いました。そこで、以下の点についてDynaMedを使って調べてみましょう。

1. 所見・診断：所見からの臨床予測と検査の必要性・精度について
2. 治療：抗菌薬の使用効果について、遠足などのイベントへの参加の可否について
3. 合併症：今後のリウマチ熱や腎炎の合併リスクについて

Search

まず、DynaMedのトップページから、「strep throat」や「pharyngitis」などのキーワードで検索してみましょう。最初に数文字入力すると、候補が列挙されますのでそこから選択する事も可能です。



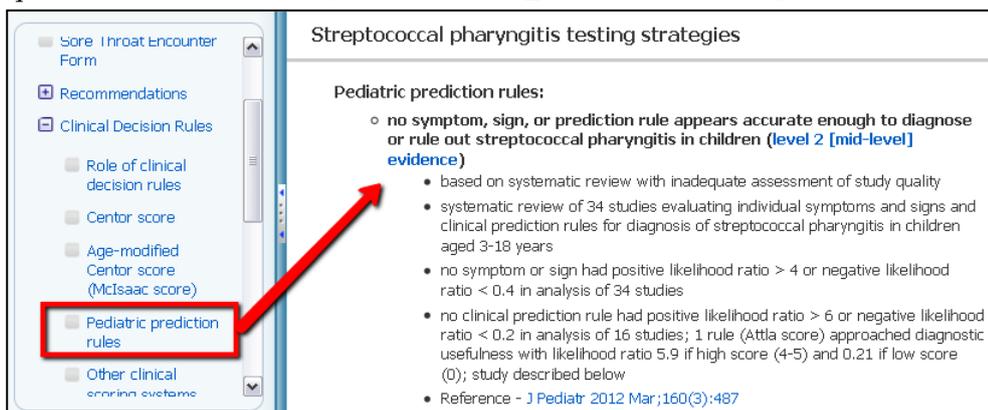
検索したキーワードに対して関連度の高いトピックを検索結果表示します。

連鎖球菌性咽頭炎に関するトピックとして、疾患トピックの他に「検査」や「抗菌薬治療」に的を絞ったトピックも存在します。

1. 所見・診断：所見からの臨床予測と検査の必要性・精度について

溶連菌性咽頭炎の診断・検査についてまとめられたトピック、”[Streptococcal Pharyngitis testing strategies](#)”を確認してみましょう。

発熱やのどの痛み、頸部リンパ節の腫れなどの臨床所見からの予測について、トピック目次から”[Clinical prediction rules](#)”の箇所を確認すると関連する情報が入手できます。



「臨床所見のみでは溶連菌感染診断の予測には不十分である」、という事と、エビデンスとなる文献の要約および参照元が左図のようにまとめられています。

感染症関連トピック検索例 : 溶連菌性咽頭炎

その他、溶連菌の迅速診断キットの検査精度（感度・特異度）に関する情報なども、下記のように確認する事が出来ました。

（目次項目：“Rapid Antigen Detection Testing : Sensitivity and accuracy” より）

- STREP A OIA MAX testing had 94.7% sensitivity and 100% specificity in group using 1 throat swab
- STREP A OIA MAX testing had 92.4% sensitivity and 96.3% specificity in group using 2 throat swabs
- Reference - [Arch Pediatr Adolesc Med 2005 May;159\(5\):486](#)

2. 治療：抗菌薬の治療効果について、遠足などのイベントへの参加の可否について

溶連菌性咽頭炎の抗菌薬治療についてまとめられたトピック、“[Antibiotics for Streptococcal Pharyngitis](#)”を確認してみましょう。

まずは Overview 項目を確認します。ここでは、IDSA (Infectious Diseases Society of America)やAHA、CDC の推奨事項（ガイドライン）の簡潔な要約と共に、抗菌薬の効果について下記のような記載がありました。

Overview:

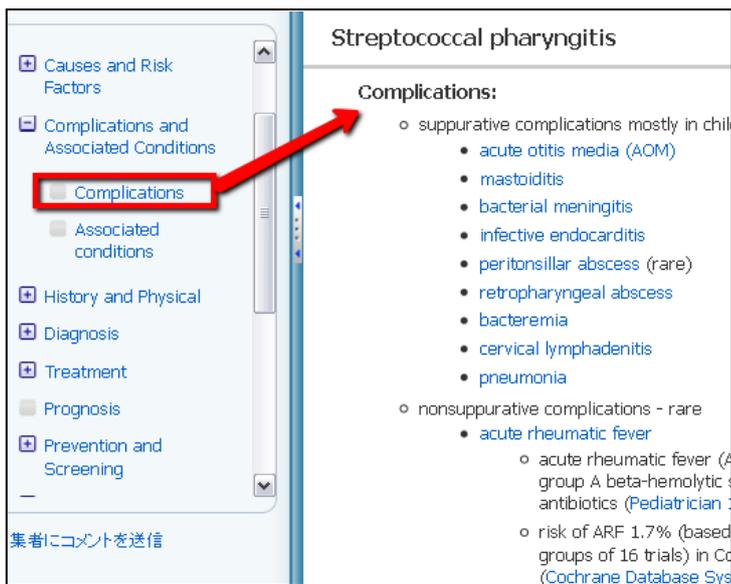
- antibiotics for sore throat reduce incidence of rare complications ([level 1 \[likely reliable\] evidence](#)) and may reduce duration of sore throat by about 16 hours ([level 2 \[mid-level\] evidence](#))

「抗菌薬の使用は（リウマチ熱などの）レアな合併症の発症を減少させ、咽頭炎を 16 時間早く解消させる。」(Reference - [Cochrane Database Syst Rev 2006 Oct 18;\(4\):CD000023](#) (review updated 2011 Sep 7) というもので、より詳細な情報は目次項目の”Efficacy”から確認する事が出来ます。

2 日後の遠足を楽しみにする男の子に、今回は抗菌薬を処方すべきでしょうか？

3. 合併症：リウマチ熱や腎炎などの合併症リスクについて

溶連菌性咽頭炎”[Streptococcal Pharyngitis](#)”トピックのうち、合併症に関してまとめられた項目がありません。目次項目より、“Complications and Associated Conditions”を確認してみましょう。



治療は有用なようです。

レアな合併症の情報として：

【急性リウマチ熱】

- 溶連菌感染に抗菌薬の治療を行わなかった場合、小児の 1~3% に合併 ([Pediatrician 1986;13\(4\):180](#))
- 抗菌薬の使用でリスク減少 ([Cochrane Database Syst Rev 2006 Oct 18;\(4\):CD000023](#) [review updated 2011 Sep 7]) など

【急性糸球体腎炎】

- 抗菌薬治療を行わなかった場合、0.1% に合併 ([Cochrane Database Syst Rev 2006 Oct 18;\(4\):CD000023](#) [review updated 2011 Sep 7]) など

【毒素ショック症候群】

などの情報が簡潔にまとめられていました。合併症予防の観点からも、抗菌薬

((作成：2013年7月2日))